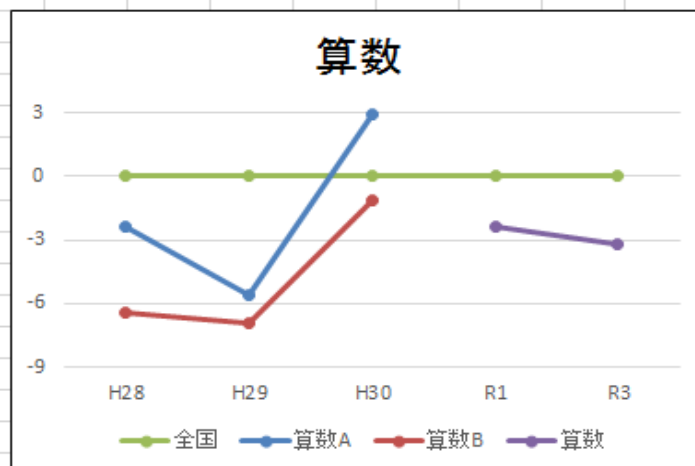
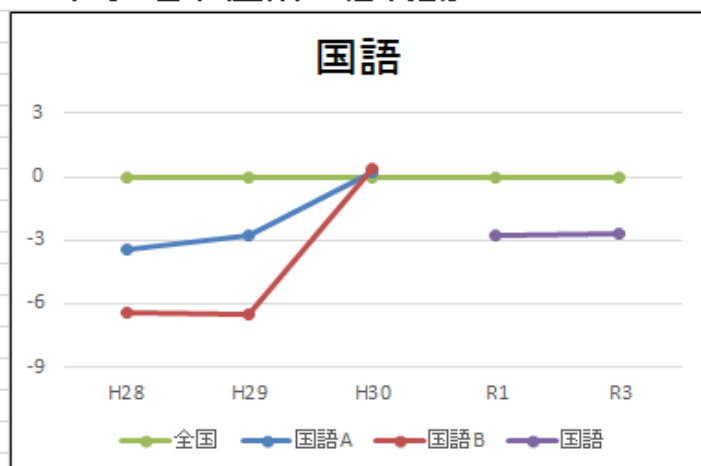
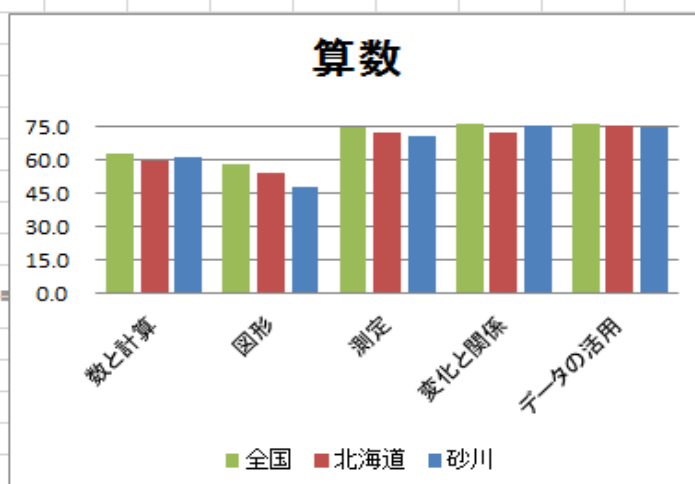
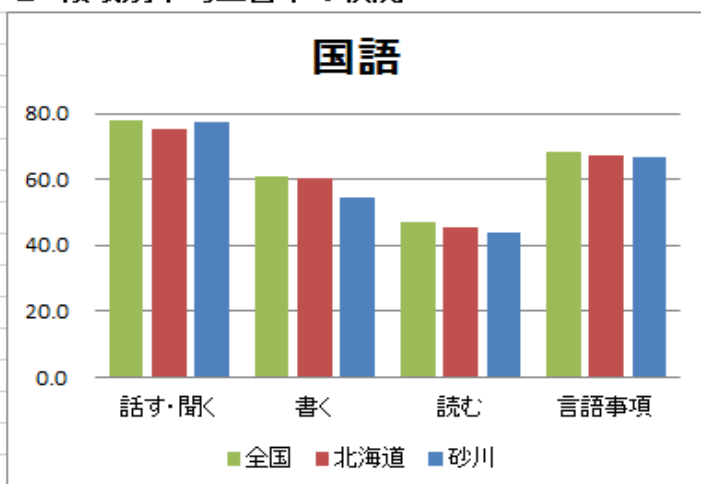


# 小学校（学校数：5校 児童数：102名）

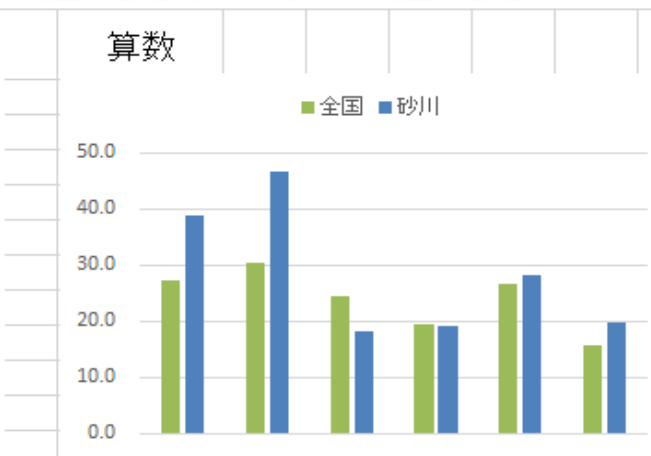
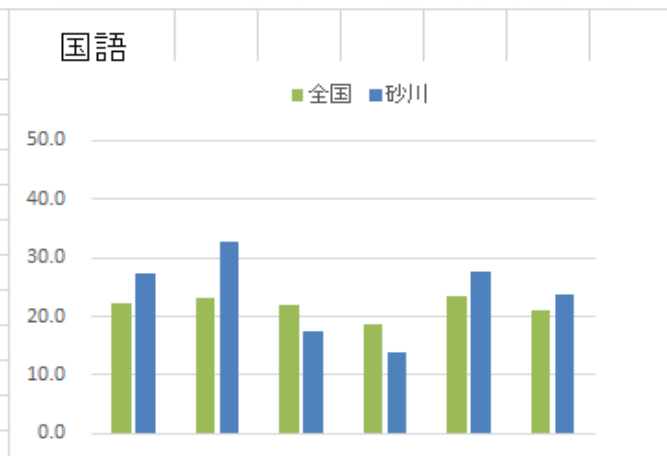
## 1 平均正答率(全体)の経年推移



## 2 領域別平均正答率の状況



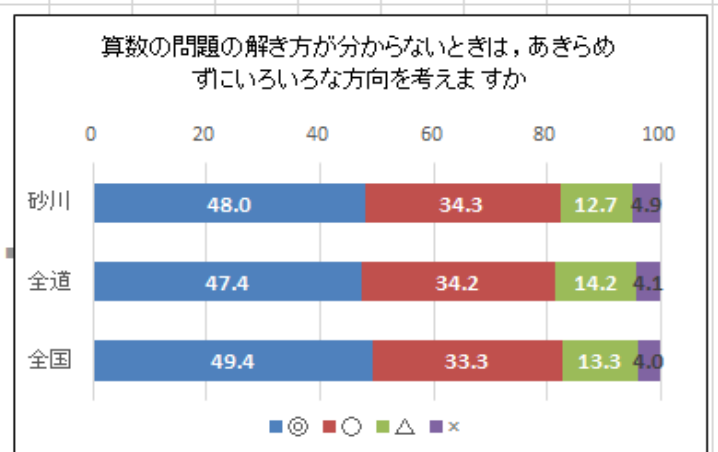
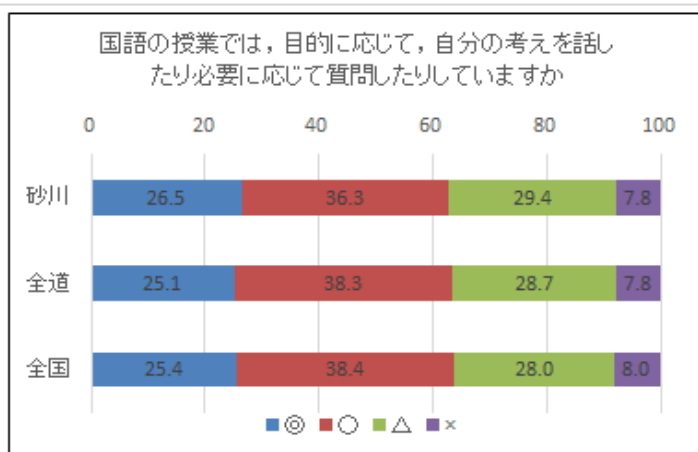
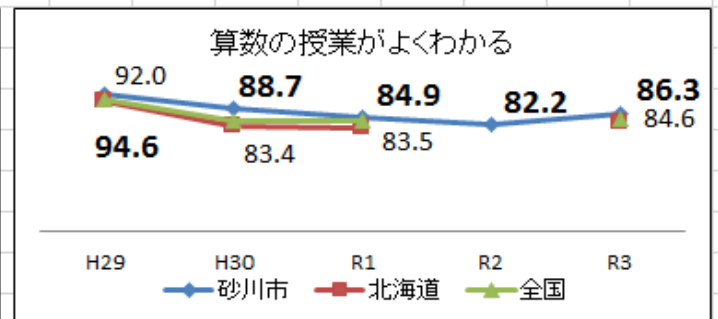
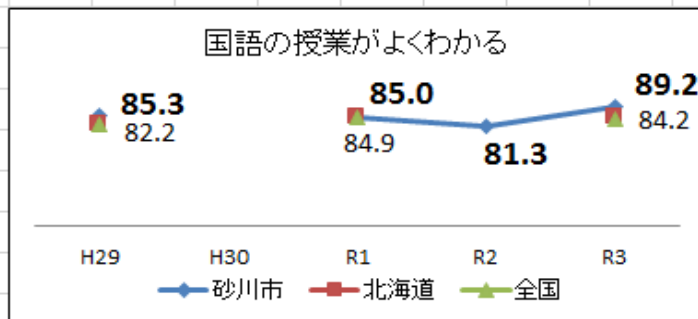
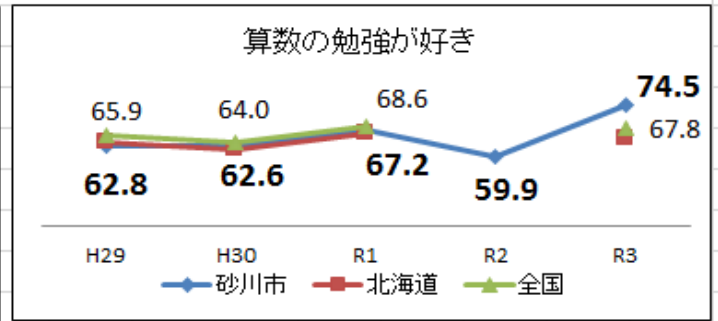
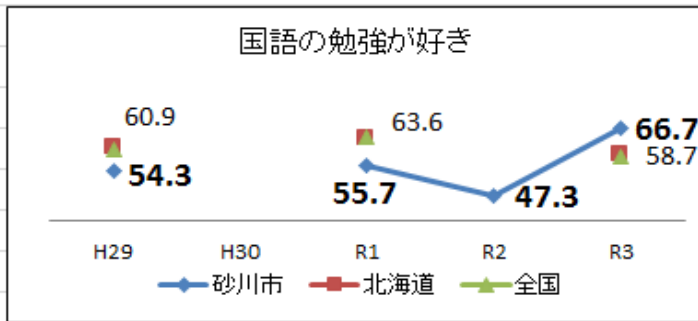
## 3 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合(努力を要する児童の割合)



国語	H29		H30		R1	R3
	A	B	A	B		
全国	22.3	23.2	22.0	18.6	23.5	20.9
砂川	27.2	32.6	17.4	13.9	27.5	23.6
差	4.9	9.4	-4.6	-4.7	4.0	2.7

算数	H29		H30		R1	R3
	A	B	A	B		
全国	27.3	30.5	24.3	19.6	26.7	15.8
砂川	38.9	46.5	18.2	19.1	28.3	19.7
差	11.6	16.0	-6.1	-0.5	1.6	3.9

#### 4 授業に関する意識(質問紙調査より)



#### 5 分析

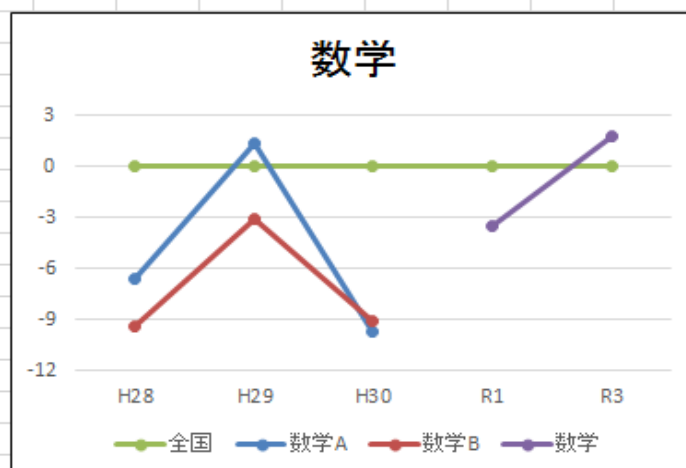
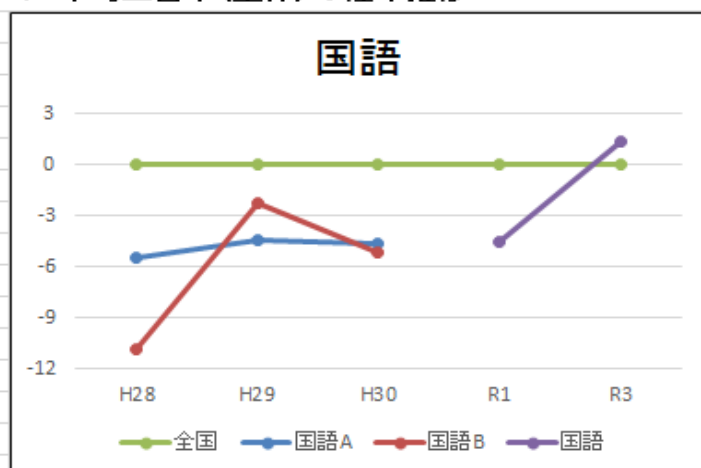
- 国語、算数ともに、全国平均をやや下回った。
- 領域別の傾向としては、国語の「書く」「読む」、算数の「図形」「測定」が全国・全道より下回っている。
- 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童(努力を要する児童)の割合が国語、算数ともに全国を上回っている。
- 国語、算数ともに、「勉強が好き」「よくわかる」との回答は全国を上回っている。
- 国語の授業で、「自分の考えを話したり質問したりしている」との回答は全国と同程度となっている。
- 算数の授業で、「問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方向を考えている」との回答は全国と同程度となっている。

#### 6 授業改善の視点

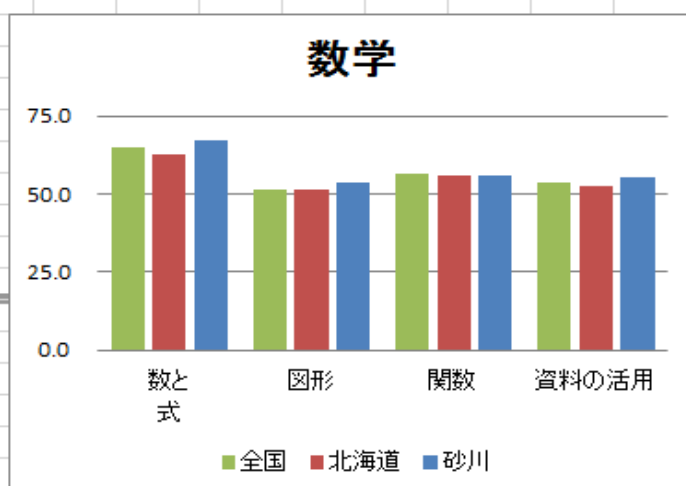
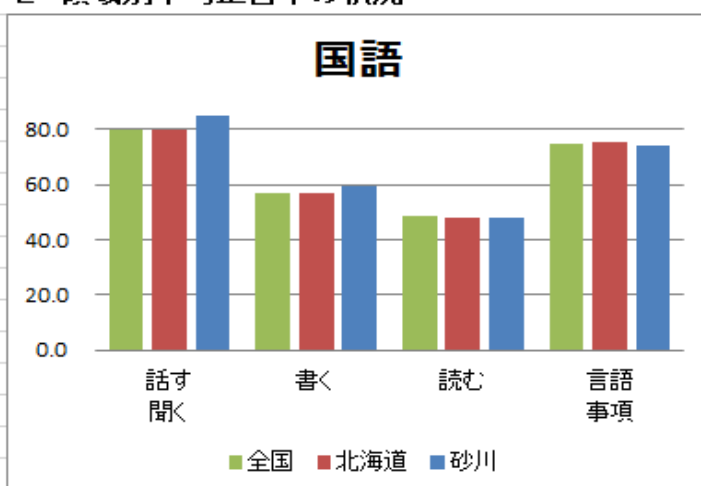
- 子どもが思考したり、話し合ったり、交流したりする場面を意図的に取り入れた指導課程の工夫。(教師の説明する時間を短くしたり、子どもの思考を深める発問の工夫など)
- 子どもが学習の達成感を感じたり、学んだ内容の再確認をしたり、次時につながる学習意欲をもったりすることができる「めあて・課題を意識した振り返り」の工夫。
- 「子どもたちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の工夫。(指導と評価の一体化を意識した授業改善)

# 中学校（学校数：2校 生徒数：108名）

## 1 平均正答率(全体)の経年推移

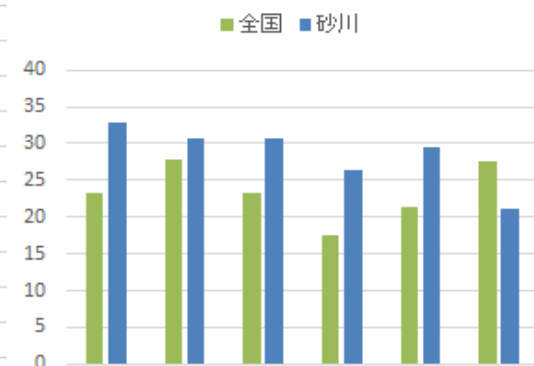


## 2 領域別平均正答率の状況

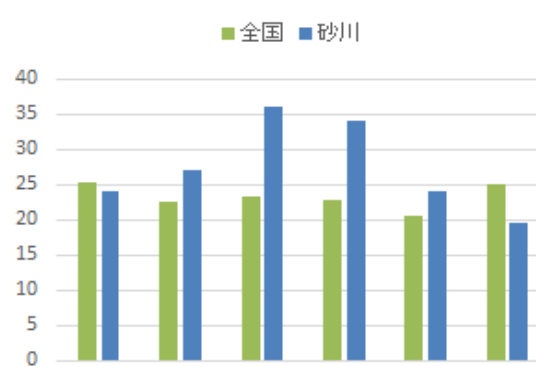


## 3 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合(努力を要する生徒の割合)

### 国語



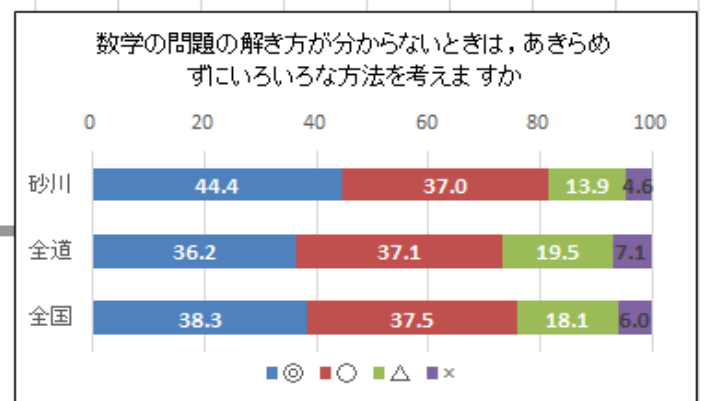
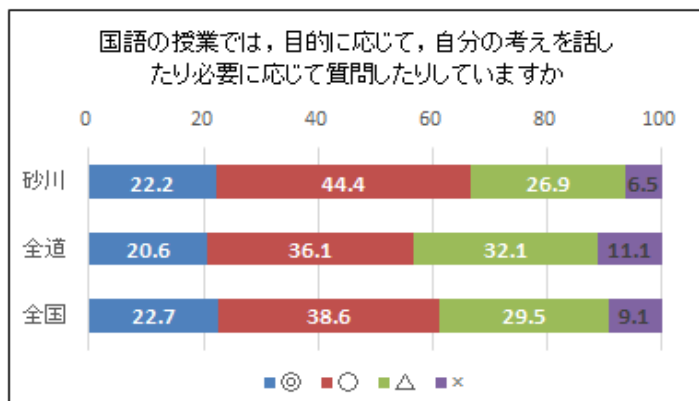
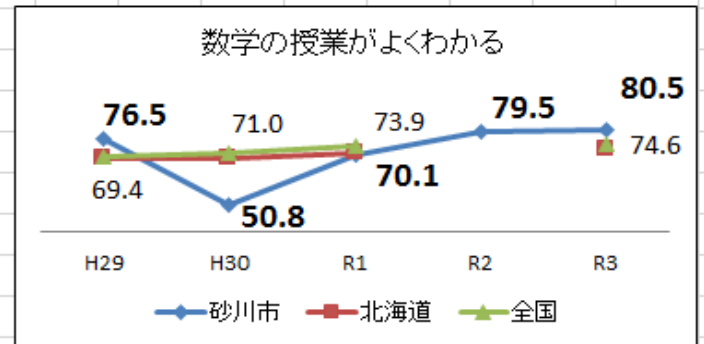
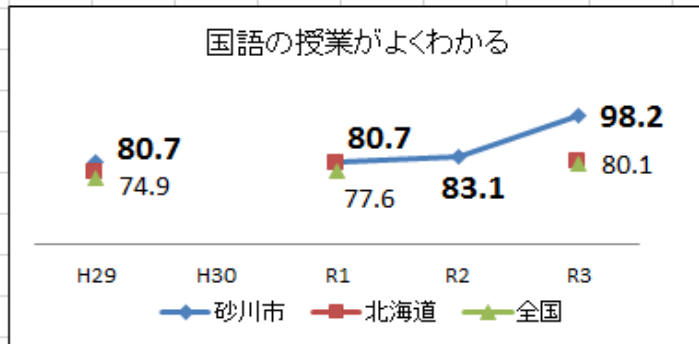
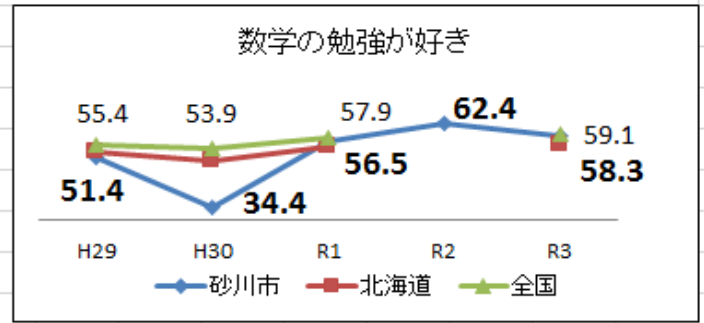
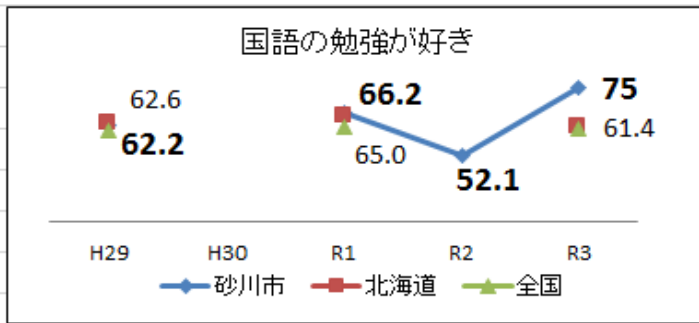
### 数学



国語	H29		H30		R1	R3
	A	B	A	B		
全国	23.2	27.8	23.2	17.5	21.4	27.5
砂川	32.8	30.6	30.7	26.4	29.6	21.2
差	9.6	2.8	7.5	8.9	8.2	-6.3

数学	H29		H30		R1	R3
	A	B	A	B		
全国	25.2	22.5	23.3	22.8	20.5	25.1
砂川	24.1	27.0	36.0	34.1	24.0	19.5
差	-1.1	4.5	12.7	11.3	3.5	-5.6

#### 4 授業に関する意識(質問紙調査より)



#### 5 分析

- 国語、数学ともに全国平均をやや上回った。
- 領域別の傾向としては、国語の「話す聞く」「書く」、数学の「数と式」「図形」「資料の活用」が全国を上回っており、それ以外の領域については全国と同程度となっている。
- 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒(努力を要する生徒)の割合が、全国を下回っている。
- 「勉強が好き」との回答は、国語は全国を大きく上回り、数学は全国と同程度となっている。
- 「よくわかる」との回答は、国語、数学ともに全国を大きく上回っている。
- 国語の授業で、「自分の考えを話したり質問したりしている」との回答は全国をやや上回っている。
- 数学の授業で、「問題の解き方が分からないときは、あきらめずいろいろな方向を考えている」との回答は全国をやや上回っている。

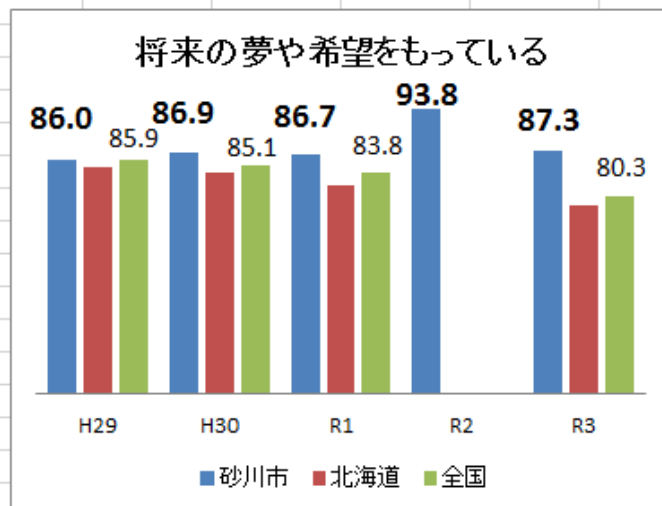
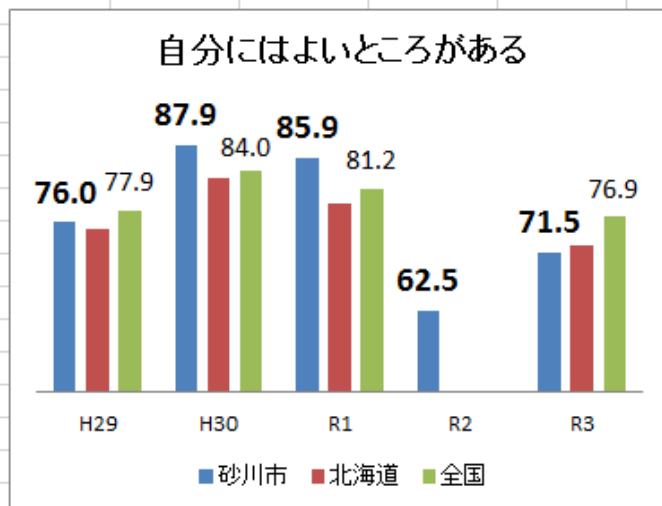
#### 6 授業改善の視点

- 子どもが思考したり、話し合ったり、交流したりする場面を意図的に取り入れた指導課程の工夫。(教師の説明する時間を短くしたり、子どもの思考を深める発問の工夫など)
- 子どもが学習の達成感を感じたり、学んだ内容の再確認をしたり、次時につながる学習意欲をもったりすることができる「めあて・課題を意識した振り返り」の工夫。
- 学習過程や思考の流れを示す板書を工夫するなど、1時間の授業を振り返ることのできる板書計画の改善。

# 小学校質問紙調査（学校数：5校 児童数：102名）

※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

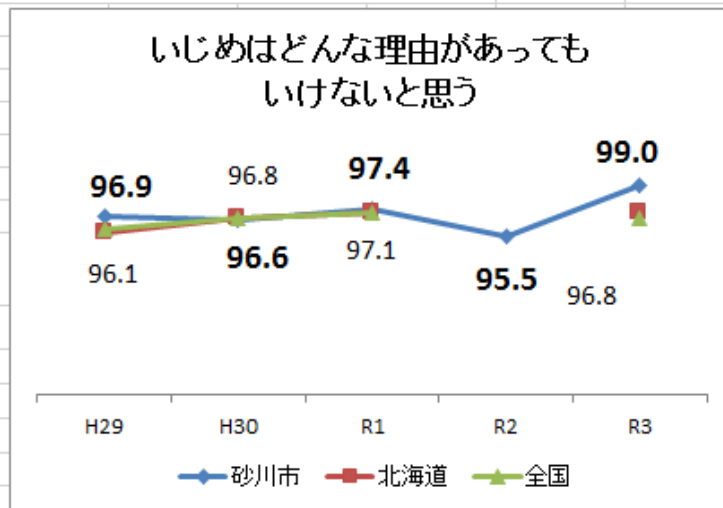
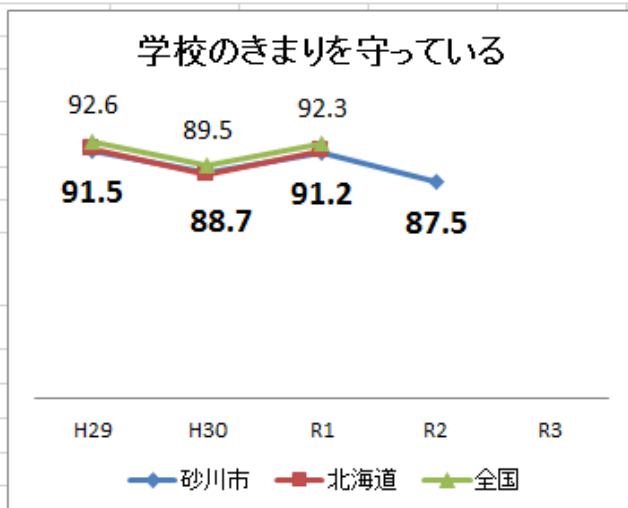
## 1 自尊感情に関する児童の状況



「自分にはよいところがある」と回答している児童の割合は、昨年度より増加したものの、全国を下回っている。道徳の授業や体験的な活動を通して、自分のよさを見つけたり自信をもたせたりするような教育活動をさらに進めることが大切である。

「将来の夢や希望をもっている」と回答している児童の割合は、昨年度より減少したものの、全国を上回っている。キャリアパスポートを活用するなどして、小学校の早い段階からのキャリア教育のより一層の充実を図ることが大切である。

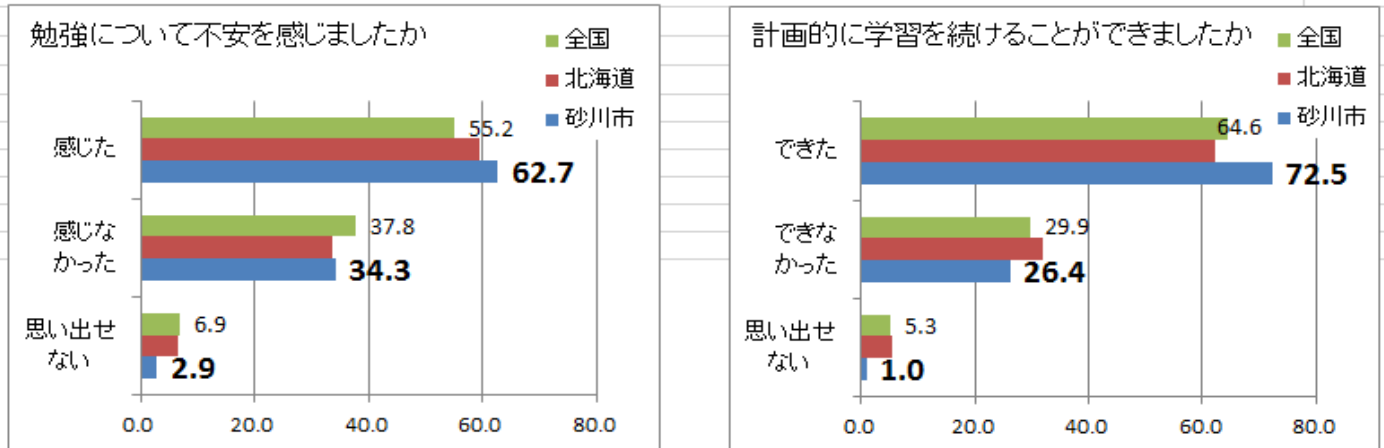
## 2 規範意識に関する児童の状況



いじめに対する考え方は改善傾向にはあるが、全ての児童がいじめはどんな理由があってもいけない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していけるよう、様々な場面を通して引き続き指導していくことが大切である。

### 3 学習に関する児童の状況

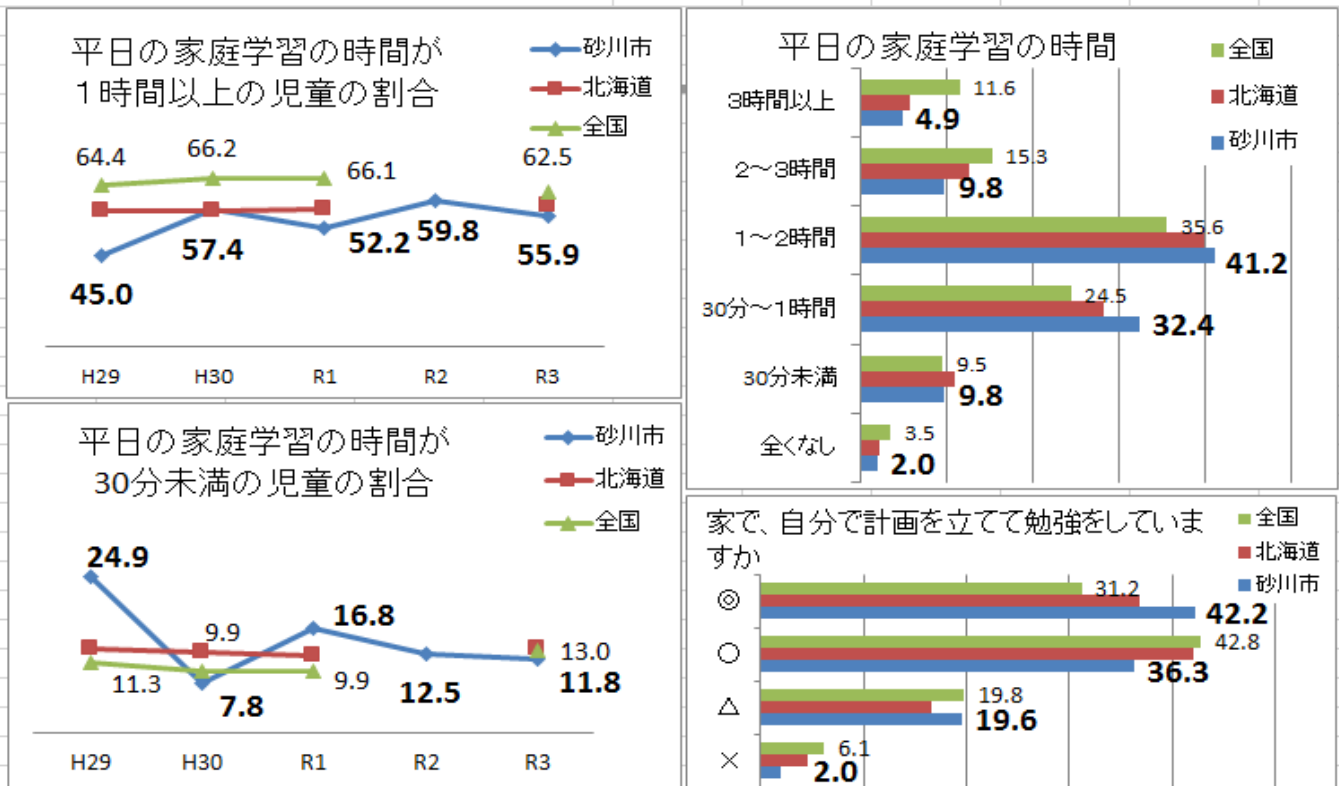
#### (1) 新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中の学習状況



臨時休校中に不安を感じた児童の割合は、全国を上回っている状況にある。各学校においては不測の事態に備え、臨時休校となった場合は、速やかにオンライン授業に切り替えることのできる準備を進めるとともに、児童の発達段階に応じて分散登校やアナログ教材を併用するなど、柔軟な対応を検討していくことが大切である。

臨時休校中に計画的に学習を続けることができた児童の割合は、全国を上回っている。各学校では定期的に学習課題を児童に提示するとともに、学習した内容を適切に評価することで、児童の継続的な学びを促すことにつながったと考えられる。

#### (2) 家庭での学習状況



学習時間の質問からは、5割以上の児童が1時間以上学習しており、学習時間が30分未満や全くない児童の割合も全国を下回っている。また、平日の家庭学習の時間も1時間～2時間が最も多く、家庭学習の習慣がある程度定着していることが伺える。

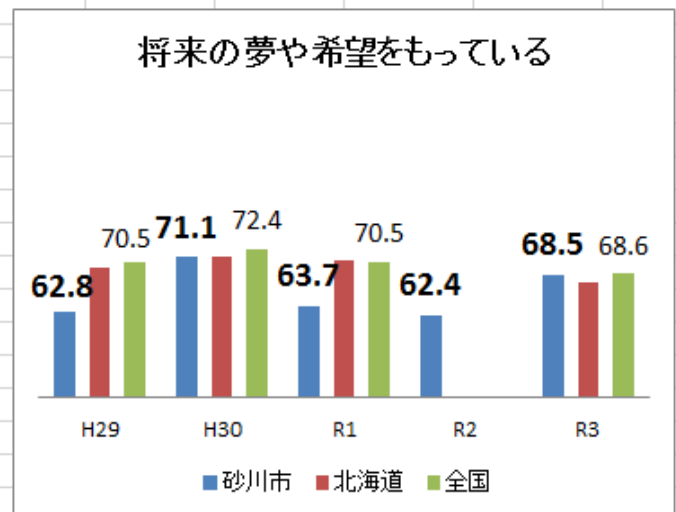
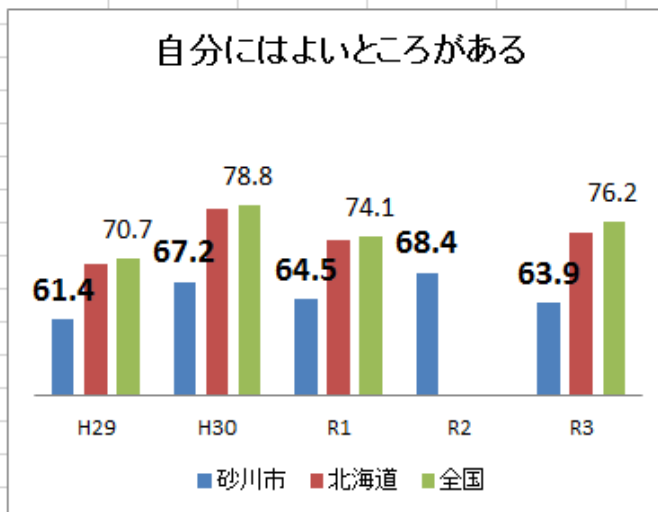
家庭学習の計画性については、自分で計画を立てて学習している児童の割合は全国を上回っており、学習の見直しをもって家庭学習に取り組んでいることが伺える。

今後、家庭学習を全くない、家庭学習の時間が30分以下の児童に対して、家庭学習の取組方や内容、計画のたて方などについて、具体的に指導をしていくことが大切である。

# 中学校質問紙調査（学校数：2校 生徒数：108名）

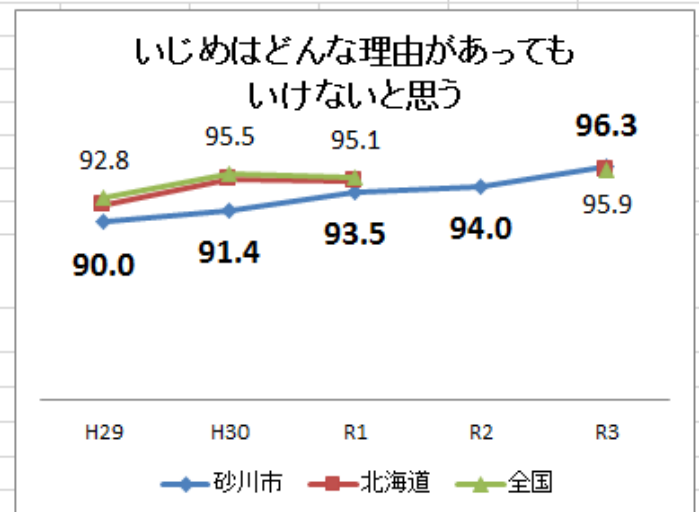
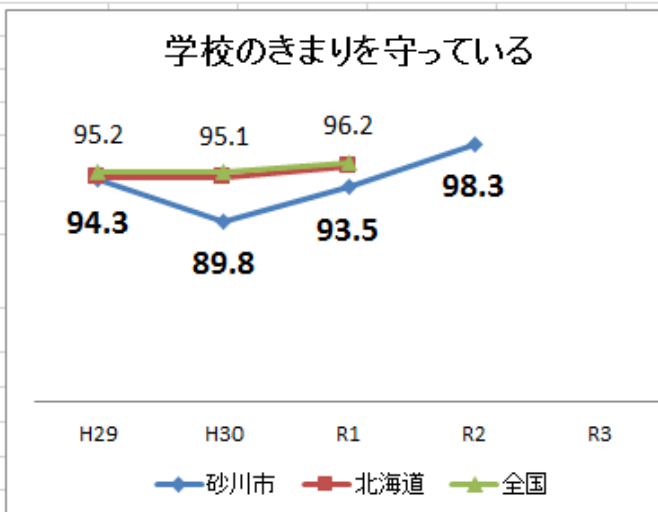
※北海道の結果については、グラフ表示のみとし、数値による表記を省略

## 1 自尊感情に関する生徒の状況



「自分にはよいところがある」と回答している生徒の割合は全国より1割以上下回っている。道徳の授業や体験的な活動を通して、自分のよさを見つけたり自信をもたせたりするような教育活動をさらに進めることが大切である。「将来の夢や希望をもっている」と回答している生徒の割合は、昨年度より増加し、全国と同程度となっている。キャリアパスポートを活用するなどして、卒業後の進路を意識させた早い段階からのキャリア教育のより一層の充実を図ることが大切である。

## 2 規範意識に関する生徒の状況

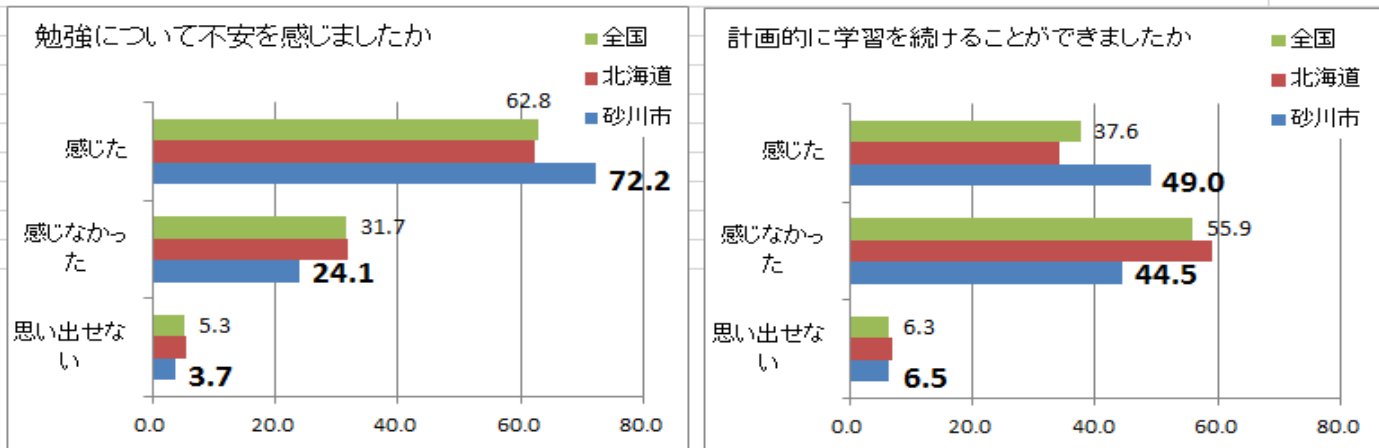


いじめに対する考え方は改善傾向にはあるが、全ての生徒がいじめはどんな理由があってもいけない行為であり、お互いに嫌な思いをすることなく生活していけるよう、様々な場面を通して引き続き指導していくことが大切である。



### 3 学習に関する生徒の状況

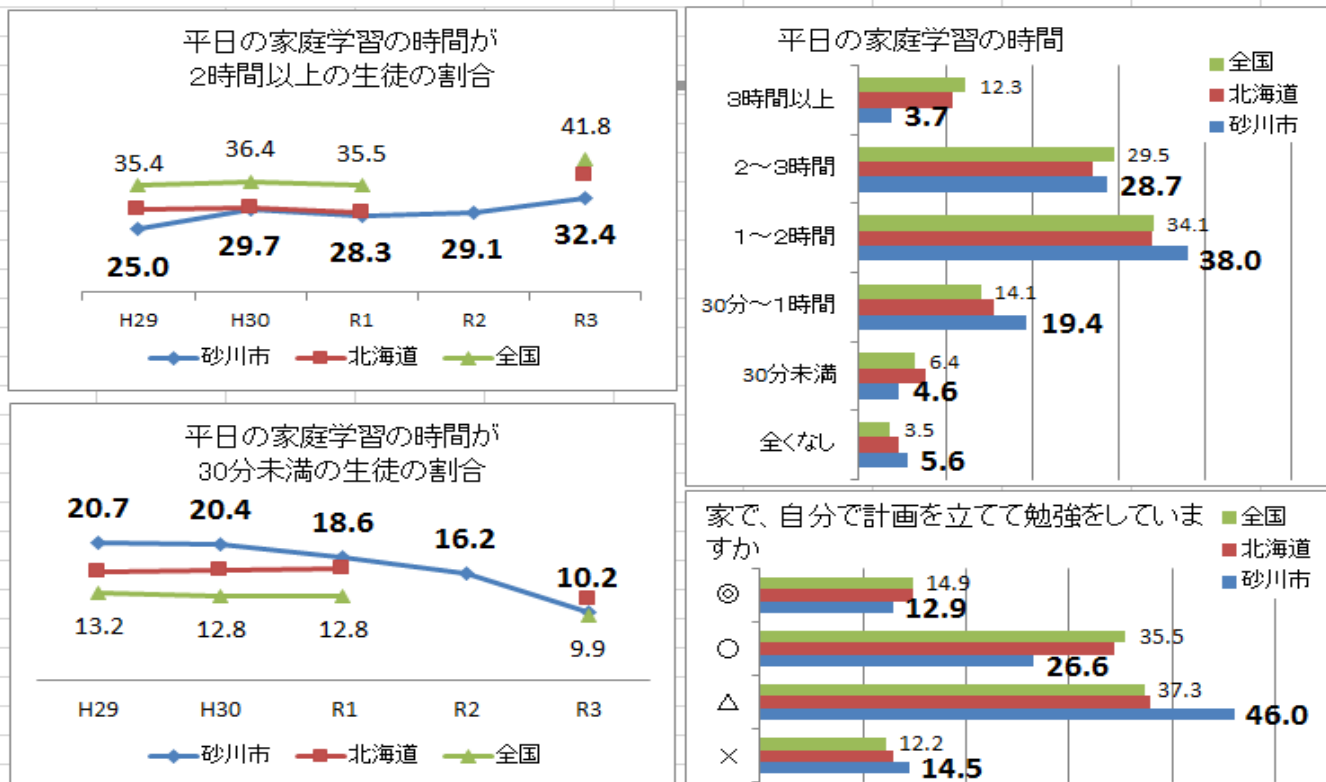
#### (1) 新型コロナウイルス感染症拡大で臨時休校していた期間中の学習状況



臨時休校中に不安を感じた生徒の割合は、全国を上回っている状況にある。各学校においては不測の事態に備え、臨時休校となった場合は、速やかにオンライン授業に切り替えることのできる準備を進めるとともに、卒業後の進路選択に不安を抱くことがないように、きめ細かな学習支援が大切である。

臨時休校中に計画的に学習を続けることができた生徒の割合は、全国を上回っている。各学校では定期的に学習課題を生徒に提示するとともに、学習した内容を適切に評価することで、生徒の継続的な学びを促すことにつながったと考えられる。

#### (2) 家庭での学習状況や過ごし方



学習時間の質問からは、中学生の家庭学習として望ましい2時間以上取り組んでいる生徒の割合は、全国を10ポイント程度下回っており、全くしない生徒の割合も全国を上回っている。全体の傾向として、家庭学習に取り組む時間が不足していることから、卒業後の進路を意識させながら、1日の生活リズムの見直しを行うなどして、家庭学習に取り組む時間を確実に確保することが大切である。

家庭学習の計画性については、自分で計画を立てて学習している生徒の割合は全国を10ポイント程度下回っており、家庭学習の習慣が定着していないことが伺える。今後、家庭学習を全くしない、家庭学習の時間が1時間以下の生徒に対して、家庭学習の取組方や内容、計画のたて方などについて、具体的に指導をしていくことが大切である。